様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １１ 日現在

機関番号：３２６１７
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３４０２０４５

研究課題名（和文）多文化社会の排除と包摂の論理：ハワイにおける文化創生をめぐる民族間交渉と戦略

研究課題名（英文）The ways of exclusion and subsumption for creating the ethnic cultures in the multicultural Hawaii

研究代表者
白水　繁彦（SHIRAMIZU, Shigehiko）

駒澤大学・グローバル・メディア・スタディーズ学部・教授

研究者番号：８００９５９４２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　14,200,000円、（間接経費）　4,260,000円

研究成果の概要（和文）：白水は沖縄系文化的架橋者のストラテジーを分析することにより、彼らが日系等他エスニック集団を準拠集団として文化的表象を構成していることを見出した。中野は中国系とフィリピン系の民族祭が彼らの文化創生に資していることを明らかにした。李は戦前から戦後にかけてコリア系移民の舞踊活動の変化を歴史的に明らかにした。城田はハワイ、沖縄、福岡における障がい児・者のための芸術療法の現場にて参与観察を実施し、各地域での特徴点と共通点および民族芸術療法の可能性と課題の検討を行った。野入はアメラジアンと帰米2世のナラティブ分析を通じて、ハワイの“ローカル”の構築とディアスポラとの相互行為との関連を検討した。

研究成果の概要（英文）：Shiramizu examined the strategies of the Okinawan bridge-builders. He found that they made the other ethnic groups the reference group, thereby, they have constructed their cultural representations. Nakano examined the process of establishment and development of the Chinese and Filipino ethnic festivals, and found that these festivals play a significant role in the creation of new ethnic cultures. Lee conducted historical research on Korean dance in Hawaii, and examined the ways in which their cultural representation has been shaped and reshaped over the years of pre-war and post-war era. Shirota conducted fieldworks on dance and music therapy for children and people with autistic spectrum disorder in Hawaii, Okinawa, and Fukuoka. She compared strategies of each area and common point. Noiri conducted life-history interview research for Amerasinan and Kibei-nisei in Hawaii. She examined constructed Okinawan identity in Hawaii Locals and its reflection on identity of diaspora.

研究分野：社会科学B

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：文化創生　文化的架橋者　文化的表象　民族間文化交流　民族祭　ディアスポラ　芸術療法　アメラジアン

１．研究開始当初の背景

(1)白水：これまで行ってきた研究によって、多文化社会ハワイには各エスニック集団がそれぞれ代表的な同胞組織やメディアを構えており、同胞組織のなかの活動的な個人やメディアが他エスニック集団や主流社会との交渉を受け持っていることがわかった。そこでそれらの個人やメディアを文化的架橋者と名付け、かれらの役割、とくに他集団や主流社会との交流・交渉の過程でどのように排除と包摂を行っているかを明らかにすることとした。

(2)中野：中国系とフィリピン系の文化変容の実態を調査する中で、民族祭を通じて展開する民族間関係と文化交流が重要な意味を有していることが明らかになってきた。その実証を進めるため、民族祭の成立発展過程を詳細に分析し、そこで行なわれる民族間交渉の変遷を跡付けることで、多文化社会における新たな民族文化の創出過程を解明することとした。

(3)李：「多文化社会ハワイの排除と包摂をめぐる論理」の言説分析や歴史性に関する研究蓄積は多数あるものの、個別事例に即しながらその歴史的変遷を実証的に解明した研究は少ない。本研究はコリア系の文化表象とその変化を明らかにすることによって、ハワイの多文化社会をめぐる歴史的連続性と非連続性を明らかにする。

(4)城田：これまでの研究をとおして、ハワイの先住民系や移民の音楽や舞踊、沖縄のエイサーなどが、自閉症児・者や発達障がい児・者などのための芸術療法（ミュージック・セラピー、ダンス・セラピー）として、どのように活用されているのかを明らかにする必要を感じた。

(5)野入：先行研究にてらせば、従来はハワイのオキナワンは一枚岩的に捉えられることが多かった。そのため、かれらの重層的なアイデンティティと相互関係を明らかにする必要を感じた。

２．研究の目的

(1)白水：「ハワイ社会の排除と包摂をめぐる文化的架橋者の志向と活動の実態の解明」という研究課題のもと、多文化社会ハワイを構成するエスニック集団のなかでも近年そのプレゼンスの大きさが注目される沖縄系にしぼり、その文化的架橋者の志向と活動の実態の解明を目的とする。

(2)中野：中国系民族祭の水仙祭に焦点を置き、そこで実施されるパフォーマンス等の分析を行なう。そして民族祭を通じ、フィリピン系など他民族との交渉や交流がどのように行なわれてきたかを明らかにする。またその交流の過程で、いかなる形で文化アイテムの取捨選択が行なわれ、中国系の新たな民族文化が創出、表象されるにいたったかを解明する。

(3)李：「民族にこだわることと多民族にこだわること：コリア系の文化創生と民族間関係」という研究課題のもと、戦前と戦後のコリア系の舞踊活動に注目し、彼（女）らの文化表象とアイデンティティの変化が、ハワイ社会の民族間関係や多文化をめぐる言論といかに関連し、それが歴史的に変化してきたのかを解明する。

(4)城田：「ハワイと沖縄の芸術療法にみる多文化共生」という研究課題のもとハワイと沖縄（日本）における障がい者、先住民、移民たちの多様な文化実践と多文化共生の実態と課題について明らかにし、自閉症児・者たちが、どのように排除され、包摂されてきているのかを検討する。そして、パフォーマンスのもつ地域性と普遍性について考察する。

(5)野入：「ハワイにおけるアメラジアンと帰米２世のナラティブ分析―越境､ハワイの“ローカル”コミュニティへの入り込みを中心に」という研究課題のもと、「移民―プランテーション―階層上昇」というハワイ“ローカル”のオキナワンが表象してきた典型的なストーリーとは位相の異なる越境とハワイ社会への入り込みを実践してきたアメラジアンと帰米２世について、彼らのナラティブの収集と分析を通して、ハワイにおける“ローカル”の生成と「ディアスポラ」との関係を明らかにする。

３．研究の方法

(1)白水：基本的にフィールドワーク法による。なかでも民族祭などのエスニック・イベントにおける参与観察とインタビュー。これは実際にボランティアで働きながらラポールを形成し、極力非指示的な方法でインタビューをする。ほかには文化的架橋者との対面的インタビュー。この場合は半構造化質問紙を用いる。

(2)中野：水仙祭については参与観察を行ない、主催者である中華総商会の関係者にインタビューを実施する。1950 年から現在に至る水仙祭の発展過程を検討するため、各時代の中国語一次資料を収集し分析を行なう。フィリピン系の事例についてもフィールドワークを重視し、フィリピン系コミュニティのリーダー層へのインタビュー等を実施する。

(3)李：まず戦前に舞踊活動に関わった文化的架橋者の家族にインタビュー調査を行いながら、史資料を収集し、コリア系の舞踊活動に関する歴史的側面を明らかにする。次に、

戦後に舞踊活動に関わった関係者へのインタビュー調査を実施しながら、関連資料を収集し、戦前から戦後の変化を明らかにする。

(4)城田：ハワイ、沖縄、福岡における自閉症児・者たちのための芸術療法の現場にてフィールドワークを実施し、療育・教育関係者たちへインタビュー調査を行う。療育施設等が発行する文献資料なども調査する。

(5)野入：ハワイのオアフ島とマウイ島においてアメラジアンと帰米2世のライフヒストリーのインタビュー調査を行う。また、世界のウチナーンチュ大会参加者を対象とするアンケート調査によって、ハワイ“ローカル”のオキナワンのアイデンティティ構造を把握する。

４．研究成果

(1)白水は平成23年度から25年度までを通して、文化的架橋者の志向と活動の実態の解明を目指した。主として注目したのは沖縄系リーダーである。白水が沖縄系文化的架橋者の研究から析出した概念はエスニック文化主義（ethno-culturalism）である。

沖縄系の文化的架橋者はウチナー文化主義を同胞集団のメンバーに広めるべく有形の文化装置として豪壮なハワイオキナワセンターを建設し、無形の文化装置としてオキナワン・フェスティバルを創出。盛大なイベントをハワイの年中行事化した（すでに 30 回余り開催）。特に、ハワイ最大の民族祭といわれるほど巨大化したオキナワン・フェスティバルは典型的な「創造された伝統」として機能し、ウチナー文化主義普及活動のなかでもフラッグシップの役割を果たしてきた。こうした活動が効を奏し、90 年代以降 Okinawan というラベルがエスニック集団として沖縄系の集団内外に認知されるようになった。

沖縄系文化的架橋者の言動を分析すると、意識的無意識的に、かれらの準拠集団となっているのは日系社会であり、ハワイ系を中核とするタテマエとしてのハワイ主流社会である。日系社会は準拠集団でもいわば反面教師としての存在であるといえる。

日系文化との差異化をはかることに敏感なかれらであるが、ハワイ文化との親和性は強調する傾向にある。中野が研究した中国系集団などの例からもわかるように、大社会との親和性の高さをアピールしながら自らの居場所を探していくのがエスニック・マイノリティの一般的な戦略であるが、沖縄系文化的架橋者はハワイ文化が大社会を代表する文化であるとしておくほうが都合がよいと判断したということであろう。そして少なくとも PC もしくはタテマエ上からもそのことに誰も異論をさしはさむことはできないのである。

沖縄系文化的架橋者はフィリピン系団体やコリア系、中国系団体と交流をはかろうとする傾向にある。日系団体を介することなく直接他エスニック団体と交流交渉にあたること自体が確固たるエスニック集団としての自信のあらわれとみることもできる。

以上のように、沖縄系文化的架橋者の戦略・戦術（排除と包摂）を分析することにより、他エスニック集団の文化的架橋者の戦略・戦術を分析する際のヒントや手がかりを得ることができるということを見出した。

(2)中野は平成23年から25年を通して中国系民族祭の発展過程を集団内のパワーポリティクス、他集団や主流社会との交流交渉を詳細に検討した。民族祭である水仙祭の成立は、第二次世界大戦直後にハワイにおいて中国系が置かれていた社会的状況が直接かかわっている。すなわち自文化継承のために、中華総商会が主導してエスニック・コミュニティを纏めあげ、発展させたエスニック文化運動が、水仙祭に結実したことが明らかになった。

具体的には、1940 年代後半における中国語学校の再開を巡る裁判闘争、そしてそれを契機とする中国系文化の継承運動が基盤となり、先駆的に独自の民族祭が成立したのであった。しかし水仙祭は、多文化社会で成立した民族祭であるがゆえに、実際には主流社会やフィリピン系など他民族との文化的交渉が生じるようになった。そのために、元来は自文化継承の目的で成立した民族祭が、外部に「開かれた」性質を帯びるようになった。

その結果、水仙祭は他民族との交流や交渉の場としても機能するようになった。パフォーマンス等で表象される文化アイテムも多様化し、他民族文化からの借用あるいは混淆という過程を経て、中国系文化の再解釈あるいは再創造が試みられるようになった。そして水仙祭を通じたこうした変化は、戦後の中国系のエスニック文化やエスニシティの変容と密接に関連していることが明らかになった。さらにフィリピン系など、他集団の民族祭の成立発展過程を調査し、比較を行なうことで、ハワイにおいては民族祭が新たな民族文化の創出のために重要な役割を果たしていることが解明された。

(3)李は、平成 23 年度は、戦前のコリア系の舞踊活動についての史料収集をハワイで行った。この調査で戦前のコリア系の文化活動全般が明らかとなり、戦前においてコリア系がどのようなアイデンティティを形成していたのか検討した。研究成果はハワイ研究会で報告した。

平成 24 年度は、戦前のコリア系の舞踊活動についてインタビュー調査を行い、文化的架橋者の意識を明らかにしながら、戦後の舞踊活動についての資料収集を始め、戦前から戦後への変化を検討した。研究成果はマイノリティ研究会で報告した。

平成 25 年度は、戦後の舞踊活動について

資料収集とインタビュー調査を行い、コリア系の文化表象と文化創造の過程を分析した。また国際学会（Asian American Studies）にも参加し、研究成果を報告するとともに、ハワイの多文化社会をめぐる最新の研究データを入手した。研究成果については、平成 26 年度中も継続して発表する。アメリカ学会および移民学会で研究報告を行う他、年度内に研究成果を出版する。

(4)城田は、平成 23 年度は、8 月 29 日～9 月 9 日のオアフ島調査では、ハワイ大学マノア校の日系と沖縄系・先住民系人類学者達や、フラの指導者達へハワイの芸術療法に関するインタビュー等を実施した。10 月 13 日～10 月 17 日の沖縄調査では、「第 5 回世界のウチナーンチュ大会」や「世界エイサー大会 2011」を調べ、東日本大震災の慰霊・復興支援のエイサーを調べ、ハワイ沖縄連合会元会長とマウイ沖縄県人会元会長等へマウイ島の自閉症児教育などについての聞き取りを実施した。

平成24年度は、9月6日～9月10日の沖縄調査ではエイサーの現代的展開等の調査、2月5日～2月12日のオアフ島調査では、ハワイ大学沖縄研究所長、ウクレレ奏者・指導者、フラ実践者、琉球國祭り太鼓ハワイ支部のメンバー、自閉症児をもつ家族等に、ハワイの芸術療法等に関するインタビュー調査を実施した。

平成25年度は、7月にマウイ島でフィールドワークを実施し、沖縄系のファミリー・リユニオンや沖縄系信徒が多いマウイ臨済禅花園妙心寺におけるボン・ダンスの練習への参与観察等を行った。マウイ島の公立小学校校長や、自閉症児・発達しょうがい児支援に関与するキーパーソンたちにインタビューも行なった。

以上の結果、ハワイの島別、エスニック集団別、ハワイ全体等における自閉症児等支援の状況と芸術療法に関する具体例と実態、課題等を把握し、沖縄や日本の事例と比較し、民族芸能の地域性と普遍性について考察した。

(5)野入は、平成 23 年度は白水繁彦編『多文化社会ハワイのリアリティー：民族間交渉と文化創生』御茶の水書房に「ディアスポラと”ローカル”―ハワイにおける帰米とアメラジアンの事例から」を上梓し、これまでの研究成果をまとめた。また、沖縄県が主催した「世界のウチナーンチュ大会」で参加者を対象とするアンケート調査を行った。

平成 24 年度は 7 月に行われた日本移民学会の年次大会で「世界のウチナーンチュ大会」参加者アンケート調査で得られた知見を報告した。また、ハワイの帰米 2 世のライフヒストリーの要旨を日英二言語で冊子にまとめ、ハワイで対象者とその家族、協力団体に無料で配布し、調査結果のフィードバックを行った。

平成 25 年度には、沖縄ディアスポラに関する報告を、日本移民学会のシンポジウムにおいて行った。また、アルゼンチンのラプラータ大学で開催された国際学会において、海外の沖縄アイデンティティの構築についての報告を行った。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 7　件）

①Shiramizu, Shigehiko. "The Creation of Ethnicity: Hawaii's Okinawan Community", in *Japan Social Innovation Journal*, 査読有、Vo1.3, No.1.2013, pp.19-35

② Shiramizu, Shigehiko et al, "Acculturation and Ethnic Identity: A Case of Hawaii's Japanese and Okinawan". in *Journal of Global Media Studies*. 陀読無、No. 12, 2013, pp.1-30

③中野克彦、帝国主義の構造理論から見たアメリカ―ハワイ―フィリピン関係と労働移　民、トランセンド研究、査読有、9 巻 1 号、2011、pp.19-23

④中野克彦、エスニック・メディアからみた「多言語社会ニッポン、ことばと社会、査読有、13 号、2011 年、pp.268-274

⑤李里花、書評 兒玉正昭著『日本人移民ハワイ上陸拒絶事件 ： 領事報告を中心に』、歴史評論、査読無、Vol. 752、2012、pp. 95-98

⑥城田 愛、書評 飯田耕二郎著『ホノルル日系人の歴史地理』、移民研究年報、査読無、Vol. 20、2014、pp. 106-109

⑦野入直美、構築される沖縄アイデンティティ―第 5 回世界のウチナーンチュ大会参加者アンケートを中心に―、琉球大学国際研究所移民研究部門『移民研究』、査読有、8 号、2012 年 9 月、pp.1 - 22。

〔学会発表〕（計 16　件）

①白水繁彦「移民・エスニック集団「比較」研究のマトリクス～ひとつの作業仮説～」日本移民学会、2014 年 6 月 28 日、和歌山大学

②白水繁彦「移民とメディア」マイグレーション研究会、2014 年 10 月 4 日

③中野克彦「多言語メディアによる新たな異文化コミュニケーションの可能性と課題：ニューコムの事例分析」国立民族学博物館共同研究会（「日本の移民コミュニティと移民言語」）、2012 年 11 月 11 日、明海大学（千葉県）

④中野克彦「帝国主義の構造理論から見たアメリカ―ハワイ関係」トランセンド研究会、2012 年 3 月 22 日、大阪女学院大学

⑤中野克彦「エスニック・メディアを通じて捉える多言語状況のダイナミズム：中華系メディアのフィールドワークから」マイグ

レーション研究会、2012 年 3 月 3 日、周防大島文化交流センター（山口県）
⑥李里花「ハワイ・コリア系移民のアイデンティティに関する歴史社会学的研究」ハワイ研究会、2012 年 1 月 20 日、東京大学
⑦李里花「トランスナショナル・アイデンティティ再考：1930 年代のハワイ・コリア系移民による『国がない』語り」マイノリティ研究会、2013 年 4 月 6 日、立命館大学
⑧Rika Lee "Beyond Two Empires?: Korean 'Country-less' Identity of Koreans in Hawai'i, 1930s" Asian American Studies Association Annual Conference、2013 年 4 月 20 日、米国シアトル市
⑨李里花「戦前のハワイにおけるコリア系移民のトランスナショナリズム：移動、アイデンティティ、祖国独立運動」アメリカ学会年次大会 、2014 年 6 月 8 日、沖縄コンベンションセンター
⑩李里花ラウンドテーブル「マイノリティと名指されること／名乗ること：移民・移住（史）研究の事例から」移民学会年次大会、2014 年 6 月 29 日、和歌山大学
⑪城田愛「ハワイ沖縄系移民たちの唄と踊りの人類学－Anthropology of Okinawan Hawaiian Migritude」の論文出版にむけて、国立民族学博物館共同研究「マイノリティと音楽の複合的関係に関する人類学的研究」2012 年 2 月 26 日、国立民族学博物館
⑫Naomi Noiri, "Migration, Gender and Okinawa", Center for Okinawan Studies at University of Hawaii, Labor Migration: Historical and Contemporary Issues from an "Islands" Perspective, 2012年3月1日, ハワイ大学マノアキャンパス（ハワイ州オアフ島）
⑬野入直美「沖縄県系人の職業・階層意識とアイデンティティー第5回世界のウチナーンチュ大会アンケートを中心に」琉球大学国際沖縄研究所移民研究班研究フォーラム「人の移動と沖縄」2012年2月4日、琉球大学
⑭野入直美「沖縄県系人の職業・階層意識とアイデンティティ―第 5 回世界のウチナーンチュ大会参加者アンケートを中心に―」日本移民学会第 22 回年次大会、2012 年 7 月 1 日、関西学院大学
⑮野入直美「沖縄ディアスポラ―ハワイにおけるアメラジアンのライフヒストリーを中心に」日本移民学会、2013 年 6 月 28 日、武蔵大学
⑯Naomi Noiri, "Constructing Okinawan Identities: Focusing on the Survey of the Participants of the 5th Worldwide Uchinanchu Festival" ラテンアメリカ・アジア・アフリカ学会、2013 年 8 月 15 日、ラプラータ大学(アルゼンチン)

〔図書〕（計 9　件）
①白水繁彦編『多文化社会ハワイのリアリティ：『多文化社会ハワイのリアリティー：民族間交渉と文化創生』御茶の水書房、2011、283.
②白水繁彦、グローバリゼーションのなかのエスニック・メディア、吉原和男編『人の移動事典』丸善出版、2013、 pp.324-325
③中野克彦「エスニック・メディア：移民の言語活動とメディア」多言語化現象研究会編『多言語社会日本：その現状と課題』三元社、2013、293（146-158）.
④李里花、『「国がない」というアイデンティティ：ハワイ・コリア系移民のナショナリズムとアイデンティティ（1903-1945)』かんよう出版、2014.
⑤山本 真鳥 編・城田 愛他著『ハワイを知るための 60 章』明石書店 2013、396(349-353)
⑥寺田 吉孝 編、城田 愛他著、未定、国立民族学博物館共同研究「マイノリティと音楽の複合的関係に関する人類学的研究」成果本、2015、未定
⑦野入直美「ディアスポラと"ローカル"」白水繁彦編『多文化社会ハワイのリアリティー：民族間交渉と文化創生』御茶の水書房、2011、183（145-180）.
⑧野入直美「ハワイ沖縄系 2 世の就学体験－帰米 2 世のライフヒストリーを中心に－」吉田亮編著『アメリカ日系二世と越境教育』、2011、215-245.
⑨野入直美「海外における沖縄アイデンティティの地域間比較―第 5 回世界のウチナーンチュ大会参加者アンケートを中心に」町田宗博、金城宏幸、宮内久光編『躍動する沖縄系移民 ; ブラジル、ハワイを中心に』彩流社 、 2013 年、pp.67－94

６．研究組織
(1)研究代表者
白水繁彦（SHIRAMIZU, Shigehiko）
駒澤大学・グローバル・メディア・スタディーズ学部・教授
研究者番号：80095942

(2)研究分担者
中野克彦（NAKANO, Katsuhiko）
立命館大学・国際関係学部・講師
研究者番号： 80449529

(3)研究分担者
李里花（LEE, Rika）
多摩美術大学・美術学部・講師

研究者番号：50468956

(4)研究分担者
城田愛（SHIROTA, Chika）
大分県立芸術文化短期大学・国際総合学科・講師
研究者番号： 80425389

(5)研究分担者
野入直美（NOIRI,Naomi）
琉球大学・法文学部・准教授
研究者番号： 90264465